

査読の基準

情報学研究所論文誌「情報学研究」に投稿された論文は、1回の査読を行い、査読付論文誌「情報学研究 Vol.3」として発刊する。この査読は、論文・実践論文の場合には、査読者を兼ねたメタ査読者1名と査読者1名の2名（査読者を2名ともメタ査読者以外の方に依頼してもよい）で、研究速報・資料論文の場合には、査読者を兼ねたメタ査読者1名のみ（査読者をメタ査読者以外の方に依頼してもよい。）で行う。論文の査読の水準は、これまでの「情報科学研究」の平均的な発表論文を位置づけとするが、常に個々の論文の質の向上を配慮して行うものとする。

- (1) 「情報学研究」は、査読基準の厳しさや緩さを特色とするものではなく、査読は通常のとおりに行うこと。
- (2) 一般の投稿論文に求められる新規性、有用性、正確さ、読みやすさ等が情報学研究の論文にも求められることは勿論だが、それらの定義については、情報学研究の特色があり得ること。
 - (ア) 新規性については、当該研究で取り上げられた技術・理論・理念・概念等の新規性だけでなく、既知のものを実践した結果の考察でも新規性を評価できること。
 - (イ) 有用性については、「有用であった」という報告だけでなく、「有用であると期待される」ことの合理的根拠が示されていれば、積極的に評価できること。
 - (ウ) 新規性と有用性は個別に評価するのではなく、それぞれがある程度の水準に達していれば、両者を併せて総合的に評価できること。
 - (エ) 正確さ、読みやすさについては、読者にとって理解しやすいものを評価すること。
- (3) 非公開情報を用いた研究の場合、正当な手続きによりその情報を入手する方法が記されていれば、読者が追試するための情報の開示があるとみなせること。